



SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)

SDGsとは、貧困や気候変動など世界を取り巻く多くの課題を解決すべく2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までに達成をめざす国際目標のことです。様々な課題に対して17の目標と169のターゲット(個別目標)で構成されています。国や自治体、企業やNPO、市民等それぞれが協力・連携し、この目標達成に向けて活動が進められています。



社会的責任と貢献活動

社会的責任と貢献活動

沖縄ろうきんのSDGs達成に向けた考動ビジョン

ろうきん業態による行動指針の策定を受け、当金庫のSDGsワーキングメンバーにおいて、沖縄を取り巻く社会問題を視点に沖縄ろうきんとしてどのようにSDGsに取り組むべきか論議し、その内容を踏まえ「沖縄ろうきん SDGs達成に向けた考動ビジョン」を制定いたしました。

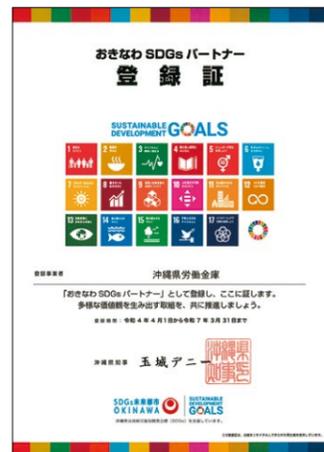
SDGsを経営戦略に取り込み、共助・共感の循環を通して共生社会の実現に取り組めます。

沖縄ろうきん SDGs達成に向けた考動ビジョン

1. <沖縄ろうきん>は、美ら島ではたらくすべての人とその家族にどこまでも寄り添い、お金の悩みだけではなく、社会的課題の解決に会員・関係団体と連携し立ち向かいます。
2. <沖縄ろうきん>は、ゆいま～るの気持ちがあつまったグッドマネーを地域に循環させ、「誰一人取り残さない」みんなにやさしい社会の実現に貢献します。
3. <沖縄ろうきん>の役職員は、福祉金融機関職員としての使命を全うし、いままでの常識にとらわれず、変化を楽しみ挑戦し続けます。

「おきなわSDGsパートナー」へ参画

沖縄県では県民に向けたSDGsの普及活動を行う企業・団体を「おきなわSDGsパートナー」として登録し、沖縄県と共にSDGsの普及を行う企業として取り組み、持続可能な社会の実現をめざしております。



自然災害に係る取り組み

自然災害により被害を受けられたみなさまに心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い被災地の復興を心からお祈り申し上げます。

ろうきんでは、自然災害により被災された方に対して、以下の支援に取り組んでいます。

1. 融資関連の特別措置
 - (1) 被災された方のろうきんのお取り扱いに関するご相談につきましては、お取引先のろうきんへの取次ぎ等、丁寧に対応させていただきます。
 - (2) 被災された方の早期の生活安定と災害復旧を目的として、災害救援ローン(無担保)・災害救援住宅ローン(有担保)を取り扱っています。
2. 振込手数料の免除措置

ろうきんの窓口で、会員団体等が開設した義援金振込口座へ送金する際の振込手数料を免除しています。

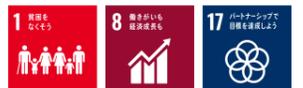


生活応援運動の取り組み

多重債務対策の取り組み

全国13のろうきんと労金協会は、2007年に「生活運動・多重債務対策本部」を設置しました。その後もろうきん業態における統一施策として、多重債務に関する啓発・救済に関する活動を継続して取り組んでいます。

当金庫においては、高金利の他社カードローンを当金庫カードローンや無担保ローンなどに借り換える取り組みを強化し、可処分所得の向上をはかっています。



金融リテラシー教育の実践

「高金利の危険性」や「身近に潜むマネートラブル」に関する情報を提供し、多重債務に陥らないために、会員職場での研修・学習会の開催、講師派遣等を通じての予防運動を進めています。

また、SDGs目標4「質の高い教育をみんなに」の実現に向けて、児童・生徒・学生に対しても、金融リテラシー教育の向上をはかるため、金融教育・消費者教育セミナーを実施しました。

昨年4月より、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられ、18歳・19歳でも親の同意なく自分名義でローン契約を結ぶこととなり、クレジットカード契約も可能となったため、若者が成人としての責任を自覚し、自立した人間として社会参加できるよう金融リテラシー向上の取り組みが急がれています。

当金庫は会員団体および学校教育機関と連携を図り、金融教育・消費者教育セミナー開催をととして、福祉金融機関としての役割発揮に向けた取り組みを実施しています。



	小学校	中学校	高校	特別支援学校	会員団体	合計
実施数	5回(5校)	3回(3校)	6回(4校)	1回(1校)	27回(20会員)	42回
参加人数	189人	474人	519人	9人	395人	1,586人



福祉金融機関としての融資制度



融資制度	2022年度利用状況		
	利用件数	利用金額	利用残高
◎ 技能者育成資金融資 経済的な理由により、職業能力開発総合大学校や公共職業能力開発施設の行う職業訓練を受けることが困難な訓練生のうち、能力開発施設の長から推薦のあった方に対して融資することで、訓練生の経済的な負担の軽減を図り、職業訓練の受講を支援するための制度です。2011年5月から国との提携によって取り扱いを開始しました。	12	13,730千円	133,844千円
◎ 求職者支援資金融資 雇用保険を受給できない方で、国が実施する「求職者支援制度」に定める訓練を受講中の場合、給付金では生活費が不足する方に対して必要な資金を融資し、生活の安定をはかりながら再就職を支援する制度で、2011年10月から取り扱いを開始しました。	0	0千円	3,111千円
◎ 福祉ローン 医療費、介護費、育児費用、育児・介護休業取得中の生活費、災害復旧に必要な資金としてご利用いただけるローンで2014年1月から取り扱いを開始しました。	22	14,700千円	53,171千円
◎ ろうきん教育ローン奨学金借換専用「kukuru」 日本学生支援機構等の奨学金の借換を専用とした教育ローンで、2018年10月から取り扱いを開始しました。	5	11,980千円	135,341千円
◎ 妊活サポートローン「Hug-Kumi」 「不妊治療を先送りしないため」のひとつの選択肢として、また、「不妊治療費を支払うことによる生活費への不安」に応えるため、2019年5月から取り扱いを開始しました。	6	6,500千円	74,143千円
◎ 自然災害復旧ローン 災害発生時に事象を限定して立ち上げる融資となり、災害救済法の激甚災害の指定を要件としないローンで2019年7月から取り扱いを開始しました。	-	-	-

※融資残高は2022年度末現在の残高を記載しています。

地域社会の活性化に関する取り組み(地域と協働した社会貢献活動等)

ろうきん・わたしたシマづくり運動(自動機利用による取り組み)

2014年10月、自動機によるお取り引きに応じて寄付金を積み立て、地域で活動する団体へ寄付することによりその活動を支援する「ろうきん・わたしたシマづくり運動」を創設し、会員団体・ご利用者と当金庫が三位一体となった社会貢献活動に取り組んでいます。2022年度は24団体へ総額130万円を寄付しました。



2022年度新規寄付先団体

団体名	所在地
1 みどり町1.2丁目学習支援「寺子屋」	うるま市
2 沖縄本島かんもく親の会	糸満市
3 困窮サポートゆるく	宜野湾市
4 特定非営利活動法人レインボーハートokinawa	那覇市
5 NPO法人ねこと人と地域のいのちをつなぐ会	読谷村
6 特定非営利活動法人ひまわりらぼ	那覇市
7 フリースペースさくら	南城市
8 福祉とまちづくりを考える会	那覇市

地区推進委員会のイベント

各会員団体・構成員のみならず各々でつくる各地区推進委員会は、暮らしに関するセミナーや学習会、スポーツ交流、社会貢献活動を主催しながら、地域や会員相互間にろうきんへの「共感の輪」を広げています。

セミナー・学習会



おもろまち地区推進委員会/
マネーセミナー
FPを講師に迎え、将来の生活設計、資金計画の立て方を学びました。



浦添地区推進委員会/
空き家の活用についての学習会
不動産会社の代表を講師に招き、空き家を活用するメリット等を学びました。



那覇市役所地区推進委員会/
失敗から学ぶ不動産相続セミナー
不動産専門FPを招き、失敗事例より揉めない相続について学びました。

スポーツ交流



与那原地区推進委員会/
与那原・南風原・八重瀬小学生バレーボール交流大会
14チーム226名の児童が参加しました。



八重山地区推進委員会/
グラウンドゴルフ大会
会員とご家族約90名が参加し、和気あいあいとプレーが行われました。



宮古地区推進委員会/
ろうきん杯ミニバスケットボール大会
総勢23チームの児童が参加し、会場は大盛り上がりでした。

社会貢献活動



コザ地区推進委員会/
ろうきん文庫贈呈式
嘉手納町立屋良幼稚園へ絵本を贈呈しました。



北部地区推進委員会/
食料品等寄贈式
北部地区の社会福祉協議会へ多くの食料品等を寄贈しました。



本店地区推進委員会/
トイレトペーパーの寄贈式
地区推進委員会が仲介役となり、航空連合から糸満市社協へ寄贈しました。

脱炭素社会の実現に向け新名護支店にて県内金融機関初「ZEB」認証取得



2023年5月8日、名護支店を新築移転オープンしました。当建物は、一次エネルギー消費量の109%削減を達成することが認められ、県内金融機関初となる「ZEB*」認証を取得するとともに「BELS*2」の最高ランクの5つ星を獲得しました。今後も積極的な環境経営と顧客サービス向上に取り組んでいきます。

※1 Net Zero Energy Buildingの略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギー収支をゼロにすることをめざした建物のこと。

※2 (一社)住宅性能評価・表示協会により開始された、建物内の省エネルギー性能を第三者が評価し認証する制度のこと。





地域社会の活性化に関する取り組み（地域と協働した社会貢献活動等）

ろうきん こくみん共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金



「ろうきん こくみん共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金」は、沖縄県内各労働団体および会員団体のみなさまのご協力のもと創設されました。

当金庫は、基金の安定運営を会員団体・お客さまとともに支え、「共助」の輪を広げ、働く仲間とその大切な子ども達の笑顔につなげていきます。



「ろうきん こくみん共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金」の給付を決定 支援していただき 心よりお礼申し上げます。



この度は、ゆめ・みらい基金の 決定ありがとうございます。相談者は 何とか子供の夢を叶えてあげたいという思いが、働きながら一生懸命節約し頑張っていました。

子どもたち(養育世帯)への食糧品・物品支援について



長期化するコロナ禍や物価上昇等の影響で、子どもを養育する世帯では家計が逼迫している状況にあります。

「ろうきん こくみん共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金」では、2020年度から引き続き、子ども達(養育世帯)への支援として、各支援機関に対し食糧品・物品支援を行いました。

これらの提供品は支援機関を通じ、子ども達(養育世帯)へ届けられました。

- 〔提供品〕 1,407,512円(お米、レトルト食品、生理ナプキン等)
〔取組期間〕 2022年9月、12月
〔提供先支援機関〕 生活困窮者自立支援事業を中心に13機関
母子生活支援施設を中心に8機関



Table with 3 columns listing support locations across Okinawa, including various support centers and facilities.

会員みなさまの“想い”が詰まった寄付金をコロナ化支援に向けて贈呈しました



県内全12地区のろうきん地区推進委員会、当金庫の会員団体(労働組合、共済会等)、当金庫が三位一体となり、2022年4月から11月にかけて実施した「笑顔であいたい感謝祭2022」(以下、感謝祭という)において、コロナ禍支援の取り組みとして、感謝祭アンケートシートの提出1枚につき200円を当金庫が拠出し、社会貢献活動に取り組む団体等へ寄付を実施する企画を展開しました。

働く仲間一人ひとりの“想い”が詰まった寄付金を、コロナ禍において影響を受けている方々への支援として活用いただいています。

Table showing donation amounts: 沖縄県新型コロナウイルス感染症対策支援寄付金 (500,000円), ろうきん 共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金 (1,000,000円), Total (1,500,000円)

※感謝祭参加者が9,596名でしたが、今回の取り組みでは寄付金額上限を150万円までとしていましたので、以上の寄付金額となりました。



沖縄県新型コロナウイルス感染症対策支援寄付金贈呈式
ろうきん 共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金贈呈式

「生理の貧困」解消に向けた会員団体との協働取り組み



厚生労働省が2022年3月23日付で公表した調査結果では、経済的理由などで生理用品の購入・入手に苦労した経験がある女性について、18歳・19歳が年代別で最も多く、若年層で「生理の貧困」が深刻化している現状が報告されました。

一般的な生理用品(使い捨て)の配布は広がりつつある中で、「吸水サニタリーショーツ」という選択肢を組み合わせることで、生理用品の調達頻度やそれに係る精神的負担、経済的負担の軽減につなげます。

- 【取組名称】 沖教組「吸水サニタリーショーツ」無償配布制度
【取組期間】 2023年6月1日(木)～2024年3月31日(日) ※在庫がなくなり次第終了
【配布対象】 主に経済的な理由で生理用品の購入が難しいと思われる児童・生徒 ※対象者の判断は養護教諭、またはスクールソーシャルワーカーが行います。
【配布商品】 ユニクロ製「吸水サニタリーショーツ」小学生向け470枚/中学生向け312枚 合計 782枚
※昨年度の在庫に加え、新たに小学生向け450枚、中学生向け180枚、合計630枚を上記感謝祭における「ゆめ・みらい基金」への寄付金から支出・購入しています。(総額929,880円分)



社会的責任と貢献活動

社会的責任と貢献活動



地域社会の活性化に関する取り組み（地域と協働した社会貢献活動等）

子どもたちに文化的・社会的体験を提供する取り組み

会員所属のホテル企業と、子どもたちが、夢や将来のビジョンを持つためにも必要な「文化的体験」および「社会的体験」のコラボレーション企画を実施しました。

体験企画については、(公財)沖縄県労働者福祉基金協会 就労サポートセンターの企画による職業体験プログラムを組み込みました。

〔開催場所〕

開催場所
沖縄ハーバービューホテル（那覇市）
ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城（那覇市）
ホテル日航アリビラ（読谷村）
ANAインターコンチネンタル万座ビーチリゾート（恩納村）
宮古島東急ホテル&リゾート（宮古島市）
アートホテル石垣島（石垣島）

〔参加した児童・生徒の延べ人数〕

小学5・6年生	67人	173人
中学3年生	97人	
高校2・3年生	9人	

〔体験内容〕 ホテルランチまたはディナーの提供
非日常空間の体験＝自己肯定感を高める。

職業体験
プロの仕事を知る、理解する。新たな視野と選択肢を持ち、自らの可能性を発見する。テーブルマナー習得、ベッドメイキング体験や宴会会場セッティング体験など。



沖縄ハーバービューホテル



ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城



ホテル日航アリビラ



ANA インターコンチネンタル万座ビーチリゾート



宮古島東急ホテル&リゾート



アートホテル石垣島

クリスマス食品提供の取り組み

コロナ禍においても、子どもたちが明るく笑顔でクリスマスを過ごせるように願いを込めて、少しでも家庭の負担を軽減できるように、ひとり親世帯等に対して、クリスマスの食品提供を行いました。

協力団体を通じて、ひとり親世帯等へ呼びかけを行い、会員所属企業であるイオン琉球株式会社と生活協同組合コープおきなわ、オキコ株式会社、フォーモストブルーシール株式会社の協力のもと取り組みを行いました。

〔提供先〕 ひとり親世帯、困窮状態にある子どものいる世帯、学生等

〔提供数〕 1,136セット

〔提供した食品〕 世帯等に対して当金庫で選定した3食品をセット提供しました。

- ・ホワイトクリスマスケーキ(生クリームケーキ)
または、チーズケーキかアイスクリームケーキ
- ・チキン
- ・パーティ寿司またはパーティーサンドウィッチ

- 〔協力団体〕
- ・しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄
 - ・宮古島市役所 福祉部 福祉政策課
 - ・竹富町役場 福祉支援課 子育て支援係
 - ・子どもホッとステーション(石垣市)
 - ・女性を元気にする会
 - ・(公財)沖縄県労働者福祉基金協会
 - ・(一財)石垣市ひとり親家庭福祉会
 - ・与那国町役場 長寿福祉課
 - ・NPO法人エンカレッジ
 - ・婦人保護施設



観光業をつつむ共助の「輪」支援策

コロナ禍において、子ども達が「笑顔」で楽しんでほしいという思いと、観光業に携わるバス会社、モノレール会社の一助になればという思いで、当金庫会員所属企業の保育園・こども園に対し、観光バスを利用した「芋ほり遠足」とモノレールを利用した「空中遠足」を提供しました。

支援策については、ツアーの企画や観光バスの調達に以下の当金庫会員所属企業である旅行会社やバス会社を利用させていただき、ツアーの提供を行いました。

〔協会員所属企業および協会員〕

- ・株式会社JTB沖縄(JTB沖縄労働組合)
- ・沖縄バス株式会社(沖縄バス労働組合、沖縄バス労働組合共済事業部)
- ・株式会社琉球バス交通(沖交労・琉球バス組合)
- ・東陽バス株式会社(東陽バス労働組合)
- ・ていーだ観光株式会社(ていーだ観光労働組合)
- ・中部観光バス株式会社(中部観光バス株式会社労働組合)
- ・東運輸株式会社(東運輸労働組合)
- ・沖縄都市モノレール株式会社(沖縄都市モノレール労働組合)

ツアー名	遠足催行数	バス運行数 (※モノレール運行数)
観光バスで イモほり遠足!	57団体	71台
ゆいレールで 空中遠足!	7団体	14台 (※7編成)



食品の贈呈

株主優待として企業から届いた食品を、コロナ禍により困窮している学生や子どもの居場所づくり等の支援を行っている団体へ贈呈しました。

〔贈呈先〕 沖縄大学、馬天おいしい会



社会的責任と貢献活動

社会的責任と貢献活動